



辻 史子

公明党田原市議員

今後、動物愛護行政をどのように進めていくのか

愛知県動物愛護センターや民間団体、地域などと連携を強化し、様々な問題に対応していく



「動物との共生社会を目指して」動物愛護に関連する取り組みについて

問 今回の動物愛護管理法の改正に伴う今後の対応は。

答 マイクロチップが装着された犬や猫の飼い主が変わるたびに、新しい飼い主は登録情報を変更する必要があるため、市民へ制度の周知を図っていく。また、マイクロチップ装着は飼い主の特定や、虐待・遺棄の抑制につながるため、装着への理解が深まるよう啓発に努めていきたい。

問 ペットが繁殖し過ぎて管理できなくなる多頭飼育崩壊が社会問題となっているが、市の対応は。

答 動物愛護センターと状況を把握した上で、飼い主に対し、不妊去勢手術や譲渡相手を探すことなどの対策をお願いしていく。また、多頭飼育崩壊の要因は、認知症など飼い主自身が影響している場合もあるため、市の関係部局と連携して対応していきたい。

問 猫の数やトラブルを減らす地域猫活動への補助金等の支援は。

答 地域猫活動への理解を深め、実際に活動する人材育成などの環境を整えることが優先と考えている。補助金については、今後の状況等を踏まえて検討していきたい。

問 今後、動物愛護行政をどのように進めていくのか。

答 市だけでなく、動物愛護センターや民間団体、獣医師会、地域などと状況や情報を共有しながら連携を強化し、様々な問題に対応していく。



一般質問

- P 6 長神 隆士 観光振興の方向性について
- P 7 辻 史子 「動物との共生社会を目指して」動物愛護に関連する取り組みについて
- P 8 内藤喜久枝 本市の目指す食育について
- P 8 鈴木 和基 学校プール集約化の取り組み状況について
- P 9 小川 貴夫 人口増施策について
- P 10 中神 靖典 上下水道事業の将来に向けての考えについて
- P 11 岡本 重明 まちづくりについて